

1 「授業備品」NO10 H.27.11.4 (アクティブ・ラーニング)

アクティブ・ラーニングとは、子供が自分の考えを書いたり発表したり、グループで課題を解決する活動です。仲間とのたくさんの話し合いの中で、教え合いのある授業です。理論を再度学んで下さい。

- ・子供が一人で問題に取り組むのではなく「ペアで意見を交換する」「子供が説明する」授業。
- ・分かっている子が分からない子に伝え、分からない子は仲間から教師とは違う視点で説明を聞く授業。分からない子には、大きなチャンスとなる。
- ・子供が自分で考え判断したことをコミュニケーションをとりながら子供同士で伝え合う授業。

I 子供たちへ

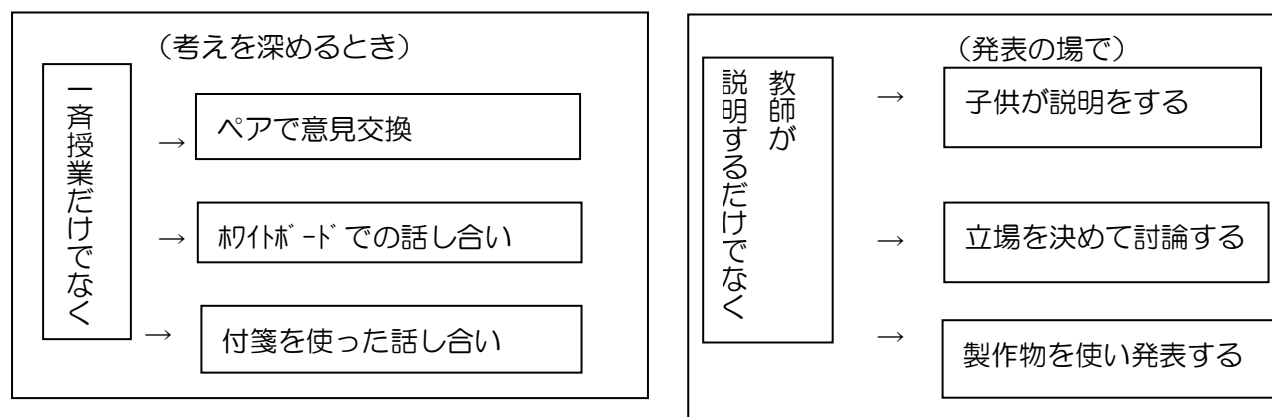
1 学び方が変わる

私たちが教わった学習方法は、教師の多弁で一方的な話を1時間聞くことだった。ひたすら学んだことを暗記し、その知識で試験を勝ち抜く方法だ。他の人のことは考えず、ひたすら自分一人で学ぶことが多かった。一人勉強だ。その結果、知識には強いが、応用力に弱かった。学びにおいて周りの友からの助言がないため、自分一人で物事を判断していた。こなし型の学習であった。

社会がグローバル化し、一人や一国だけで生きるのは不可能な時代に入った。今の時代を生きるためには、共生の心が重要だ。そうした生き方を学ぶために授業が変わる必要がある。一人勉強から、仲間と一緒に学ぶ学習だ。授業の中で仲間とやりとりをすれば、自分の気付かなかったことを教わる。学習の苦手な子にとっては仲間から学ぶことになるので理解できるようになる。その方法がアクティブ・ラーニングだ。3年後には、日本全国の学校で取り入れることになる。

2 さまざまな手法のアクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングにはさまざまな手法があり決まった型はない。下記のような方法を（高等学校指導資料）必要に応じて取り入れればよい。知識・技能の習得の場面では、これまでの一斉指導型が有効な場合もある。こうしたことを意識をして取り入れることが求められている。



「文部科学省言語活動の充実に関する指導資料高等学校版」

3 教科横断的な学び

アクティブ・ラーニングは、どの教科でも取り入れることができる。これまでの学級や教師によって違う授業を、学校で共通した①問題解決的な学習活動 ②見通しや振り返りを行う学習活動 ③言語活動等を教科横断的に取り入れることになる。特に学習過程(問題解決学習過程)を統一することが中心となる。

アクティブ・ラーニングの協働的な学習では音声言語を使うことが主となるが、文字言語も大切にすることも重要である。話し合いをする学習に加えて、しっかり考えを書いて表すことも大切である。これをバランスよく教科横断的に行うことが重要だ。

4 従来型の学習で伸びきれなかった子を伸ばす

従来の知識習得学習は個人学習が主だが、アクティブ・ラーニングは協働的な学びが中心だ。子供たちは仲間で学ぶため、必然的に授業に参加するようになる。とりわけ、従来型の学習で伸びなかった子がペア学習、班学習、全体学習等で仲間から学ぶことになるので大きな伸びが期待できる。教師とは違う同じ仲間の目線で説明を聞くことになるので分かりやすくなると思う。学習が分かっている子にとっては、相手に教えることで自分の考えを整理できる。アクティブ・ラーニングはどの子にもチャンスを与える学びだ。

5 アクティブ・ラーニングが重視される背景

- ・IT の利用が進み、これからの社会が予測が難しい時代に入った。
- ・2030 年、今から 15 年後には、今の職業が大きく変わることが予想される。
- ・卒業後の入社試験では必ずといっていいほど、志望者同士のグループ・ディスカッションが設定されている。個人の力をいかにチームで発揮できるかを試している。コミュニケーション能力や共同作業ができるかどうかを重視しているからだ。

6 「どげんかせんといかん」状態の学力

全国学力・学習状況調査の経年変化をみると、小学校は全国平均を超え改善傾向にある。中学校は、依然として全国平均を下回っている。小と中の教師同士のジョイントがうまく機能していないと思われるので、早急に対処をすることが重要だ。

子供たちは自らの夢を叶えるために「学力」で全国の人と競う日が必ず来る。今のうちに「ある一定の学力」をつけておく必要がある。アクティブ・ラーニングで表現力（話す・書く）を付けることは待ったなしの状態だ。

Ⅱ 先生方へ

1 これまでの授業

これまで教師による講義調の授業が多かった。そのため子供たちには受け身の授業であった。教師自身が講義型の授業を受けてきたため、同じように再現する傾向があるのが原因ではないだろうか。

- ・子供は、教師の話を一方的に聞き、板書をノートに書くことが中心となっている。
- ・テストでは、覚えた知識を早く正確に出せるかが重視されている。
- ・読み書き計算の知識が重要であるとし、ドリル型の授業が多い。

2 待てる教師

教師は、子供たち同士のコミュニケーションにできるだけ入らないのがかぎとなる。課題の設定までは教師中心に授業を展開してもよいが、その後の学習過程は、できるだけ子供たちに任せることが重要だ。ペアや班学習、全体の練り上げ等で手を出さないようにするとよい。特にグループ学習は毎時間取り入れ、子供同士にやりとりを任せる。できるだけ待つ姿勢を貫くことだ。我慢、我慢（多弁とならない）を心掛けたい。

●これから重要視する授業

- 1 講義調の多弁(スモールステップ)を止める。
教師が教える学びから、子供同士が仲間で学び合う学びに変える。
- 2 言語わざ(スキル)の導入(言語活動)
- 3 班活動の重視(協働的な学び)
- 4 授業進行係りの導入(協働的な学び)
- 5 「考察(交流)」を行う(協働的な学び) 以上の5点をやりきる！

◎これまでの学校に合格することや就職に備えるだけの学校であってはならない。その先にある仕事についての人生をどうやって歩んで行くか、その方法を学ぶ場が学校だ。「子供につけたい力」をつけることを基点にすればおのずと指導方法もかわる。これまで良しとされてきた覚える学力が、アクティブ・ラーニングで力をつける学力に変わっていくのは当然なことだろう。子供の未来を保障するためにも、全国で通じるような学力を学校で身に

つけさせてやりたい。全国学力・学習状況調査はそのための目安だ。

2 学習過程と具体的な学習指導（構造図）

授業は、7段階の問題解決的な学習過程で進めることができる。だが7段階でも細部が分からないため、教師も子供も学習を進める方法を見つけにくい。そのため、指導者がよく話す知識習得型の学習や自己流の授業が多くなる。26の学習過程を理解し実践すれば、誰でも質の高い授業を行なうことができる。

学習過程

細分化した学習過程

具体的な学習指導

手立て

㊦グズ

①前時の振り返り

- 1 課題の設定
- I 問題(資料)の提示②
 - II 問いをもつ③
 - III 問いの共有④

⑤課題の提示＊教科により前後する

⑥日付け・縦線

⑦課題の青囲み

⑧課題の3回読み

⑨ゴールの設定

⑩シラバスの提示

㊦自力・集団解決ヒト

⑪言語わざ

- 2 解決活動
- IV 自力解決⑫

㊦机間指導赤ペン

⑬自力解決困難

⑮ペア学習

⑯班学習

⑰教科進行係り

⑱学び合いⅠ「単純意見交換」

㊦立場を添え挙手

㊦練り上げ言語わざ

㊦話す場所

㊦聞き方（反応）

㊦小黒板・個人

㊦小黒板・班代表

㊦板書に徹底

㊦後ろからの見守り

⑳教師の修正

- 3 まとめ
- VI まとめ（価値の共有）㉑

㉒まとめの発表

㉓まとめのまとめ

- 4 振り返り
- VII 振り返り㉔

㉕振り返りの発表

㉖振り返りの振り返り

㊦ノート・板書

3 1時間の授業の流れ(26+14=40項目)*○ステップ1、☆ステップ2、△ステップ3

(1)具体的な学習指導(26項目)

- ☆①前時の振り返り ・振り返りノート・模造紙・掲示物・子供が発表
- ②Ⅰ問題(資料)の提示 ・1枚の資料 ・学習問題 ・振り返り ・実物 ・体験活動
- ③Ⅱ問いをもつ ・問題等の気付き・気がついたこと・考えられること・調べてみたい
- ④Ⅲ問いの共有 ・問いの集約・ペア班全体で確認・大よその見通し・どんな方法か
- ⑤課題の提示○課題は行動目標・「～できる」・「～と言える」・「～と書くことができる」
- 2 段落課題 追求課題の後、交流(練り上げ)を意識した全教科共通の課題提示
- 「また、出し合ったことをもとに交流をしましょう。」
- *教科により課題の提示時期は異なる。最初から出す場合もある。
- ☆⑥日付け・縦線 ・赤鉛筆・縦に1cm線・日付とページ・全教科同じ
- ☆⑦課題の青囲み ・課題は青で囲む・分かっていることは青の下線
- ☆⑧課題の3回読み ・声を出す・学習参加・課題を書いた子から読む・学習リズム
- ☆⑨ゴールの設定 ・ゴールを見通す ・ゴールの口欄の設定 ・「まとめ」「まとめ方」と書く
- ☆⑩シラバスの提示 ・学習過程7 ・本時の流れ・単元全体の流れ ・ノート書き
- ☆⑪言語わざ ・結論→根拠・理由・賛同、同類、相違・対話言語わざ・学習指導要領言語
- ⑫Ⅳ自力解決 ・時間の確保(10～15分)・図、式、言葉・考えたわけを書く
- ☆⑬自力解決困難 ・1対1 ・ヒントカード ・写す ・聞く ・ノート展覧会
- ⑭Ⅴ集団解決 ・コの字向き机・中央向き机・教師を見ない
- ☆⑮ペア学習 ・ほめてアドバイス・情報交換タイム・正対する・学び記録
- ☆⑯班学習 ・司会者方式 ・ワークショップ方式 ・ノート交換会
- ☆⑰教科進行係り ・学習7段階での司会進行 ・全体会での司会 ・まとめのまとめ役
- ☆⑱学び合い「単純意見交換」 ・意見や調べた事実の単純な意見交換 ・個人や班代表が発表
- ☆⑲学び合い「考察」 ・学習課題に迫る学び合い「考察」 ・多様な考えを知る
- ☆⑳教師の修正 ・課題に迫れない時・付足し・切り替えしの発問・ねらいとの整合
- ㉑まとめ(価値の共有)・教師が書かない・まとめ赤囲み・自分の言葉で書く・リード文可
- ☆㉒まとめの発表 ・個人意見を発表 ・仲間の意見を書く ・3人発表・教師は板書
- ☆㉓まとめのまとめ ・教師がまとめない ・子供が発表 ・発表者を褒める ・全体を誉める
- ㉔Ⅶ振り返り ○3視点・めあてに迫れたか、友から学んだこと、新たにやってみみたいこと
- ☆㉕振り返りの発表・個人意見を発表・仲間の意見を書く・3人発表
- ☆㉖振り返りの振り返り ・教師は不可・発表者を褒める・全体を誉める・書き癖をつける

(2)事前指導「手立て」(14項目)

- △㉗グッズ ・シラバスグッズ・言語わざグッズ(金銀銅)
- △㉘自力・集団解決のヒント ・大切な言葉に線・文にならなくても書き出す・答えを出す全体
- △㉙学びナビ ・自力解決・教科学習のヒント・ノートの使い方・文章題の必須アイテム
- △㉚机間指導赤ペン ・個人指導・ハナマル・代表の子の決定・褒めてアドバイス
- △㉛立場を添え挙手・「似ています」「他にもあります」「比べて言います」
- △㉜練り上げ言語わざ・前の発表者の名前・他者半分自己半分・類似、相違、共通・発言リレー
- △㉝話す場所 ・自席から出る・前後左右・発言リレー・多角形型発表
- △㉞聞き方(反応)・発表者を見る・「わかりました」・うなづく、拍手・友の意見を書く
- △㉟小黑板1 ①まずは眺める②類似・相違・共通点・明瞭・正確・簡潔③最後に本人の説明

△㊟小黑板2 ①班の代表が発表②前の人の名前を言い発表類似・相違・共通点③意見を発表
△㊟板書に徹底 ・発表時に板書・ひたすら板書・名札・まとめ時に板書
△㊟後ろからの見守り ・後ろから見守る ・話し合いを半分、全部見守る
△㊟学習過程スタンダードノート ・自力解決→集団解決（自己の深化・変容）→振り返り（自己の変容）
△㊟インタビュー（研究協議会）・伝え合い？・めあての達成？・成長したこと？・2名の生徒

4 高知県教育センター 教科研究センター まなネット 第53号 平成27年10月号

子供と共にワクワクする授業を

～「授業づくりBasicガイドブック」の活用に向けて～

教職研修部 チーフ（若年教員研修担当）竹内 満

「僕も、同じこと考えちゃった！」中学校1年生の数学の授業で、友達がノートに書いた解き方の説明を、聞きに行っていた生徒がつぶやいた一言でした。

2年目を迎える教員の授業。本時の課題設定に向け問題文を提示し、生徒と共にその内容を確認後、本時の学習課題を設定しました。そして、いざ、生徒は自力解決へ・・・。

しかし、ここでなかなか鉛筆が動かない。そこで、講師の助言もあり、授業者は生徒の現状を把握したうえで

「友達がどうやって解いているか説明してもらっていいよ。」と、手立てを打ちました。多くの生徒が席を立ち、「どうやるか」と見通しの立っている友達に聞きに行きました。説明する生徒は、「多分・・・、こうやお・・・。」と言いながら、丁寧に説明を始め、教室のいくつかの場所でそんな光景が見られました。その時です。

「僕も、同じこと考えちゃった!」、「そうか、そうしたらいいね!」、「でも、ここは・・・?」等の言葉が生徒から出始め、その後、それぞれが席に着き、鉛筆を走らせ始めました。



私たちの目の前で、多くの生徒が「多分、こうやるんだ!」と見通しが立った瞬間でした。教頭先生が、「子供がワクワクしゅう、嬉しい姿だ。」と耳打ちをしてくれました。教員の手立てが、生徒の主体性を引き出した瞬間でした。私もその生徒の姿にワクワクするような感情が湧き上がりました。友達と学び合う場面を位置づけた教員の手立て一つで生徒の主体性はこうも変わる。この授業を行った教員自身が一番感じたことであったと思います。土佐市立高岡中学校採用2年目の教員と生徒が共に創り上げた、清々しい授業でした。多くの生徒が振り返りで挙手したことは言うまでもありません。



教員は、見通しを立てたつもりでも、実は子供には理解できていない。そんな授業は少なくありません。子供が、見通しをもてていないかもしれないと思った時には、仲間の力を借りられるようにしてみる、例えばペアで確認をする作業を入れるだけで子供は「ああ、そうか。」、「どうもやることがわからないね・・・。」等を共有することができ、また、教員はその様子から手立てを打つことができるようになります。

ぜひ、この授業のように子供も教員もワクワクするような瞬間を味わえる授業実践を進めていきたいですね。各小中学校へ配付している『授業づくりBasicガイドブック』には、そんな授業を目指すための「学習指導方法の工夫」を示しています。ぜひ、多くの学校で活用していただきたいと思います。

5 「授業参観シート」（授業を見合う時や自らの授業を振り返る時に使用）

展開	□授業の課題	○授業の姿
問題提示	1 教師が自ら課題を設定している 2 説明が長く課題提示に時間がかかる	前時の振り返りがある 2本時の資料を見て気付きを3視点から発表させている 3 既習学習とのずれを意識した問題(資料)である
問いをもつ	3 解くための見通しをもたせず教師が解き方の方向性を示している	4 見通しをもたせている時間を確保している
問いの共有	4 大まかな見通し(解答)を全員にもたせていない 5 2段階課題となっていない	5 子供の気付きを紹介し仲間で解く見通しをもたせている 6 全員に大まかな答えを予想させている 7 考えたくなる課題、興味関心を喚起する課題である 8 押し付け課題ではなく子供が「自己決定」する課題 9 学習課題を2段階で提示している 10 シラバスや言語わざを提示している
自力解決	6 自力解決の時間が短い	11 子供がしっかり考える時間を確保している 12 考える視点を明確に示している 13 自力解決が可能な子には他の考え方も書かせている 14 教科用語(図・式・言葉)を使う指示をしている 15 支援が必要な子供への準備をしている 16 赤ペン机間指導で個々の考えを把握している 17 全子供に何らかの考えをノートにまとめさせている
集団解決	7 ペア・グループ学習等を取り入れない 8 ペア・班学習の方法を指導していない 9 集団解決を一問一答で進めている 10 肝心な場面がスモールステップとなっている 11 教師が司会者(繋ぎ役)になりすぎている 12 教師の用意した「正解」を当てるような授業となっている 13 発表の羅列で終わらせている 14 考察の話し合いがない 15 形だけの会話「わかりましたか」「いいです」で進む 16 教師が多弁である	18 ペア・班活動を適宜に取り入れている 19 ペア学習は「褒めてアドバイス」である 20 班学習は、WS・司会者方式・ノート回し等のいずれかで進行させている 21 ペア・班学習では、質問や自分の解釈「あなたは〇〇と仰りたいですね」と伝えさせている 22 ㊦メモをさせている 23 話し合う視点(山場)を明確にしている 24 まずは単純な意見交換(山場1)をさせている 25 1~2グループ・全グループの考えを示し、比較・分類を通して考察(山場2)をさせている 26 各グループの発表を羅列する話し合いにはさせていない 27 司会を子供に任せている(教師が全部進行しない) 28 思考を揺さぶる仕掛け(誤答、多面化)がある 29 黒板に考察のコーナーがある。 30 根拠をもとに発言をさせている 31 学んだ「話し方・聞き方」で子供が対話をしている 32 子供が㊦メモや対話を参考にし、自分の考えをまとめる時間がある 33 一問一答となっていない 34 多弁を慎んでいる 35 修正をするための投げかけをしている
価値の共有	17 まとめを教師がしている	36 教師ではなく子供がまとめている 37 教科の言語を使ってまとめさせている 38 まとめを共有化させている 39 子供がねらい(学習課題)とまとめを連動させている 40 教師がねらいが達成したかどうかを評価している
振り返り	18 振り返りがない 19 タイムマネジメントができていない 20 教科係りを使わず教師が一人で授業を進めている	41 振り返り3視点で書かせている 42 自己の考えの変容を書かせている 43 新たな課題追求への意欲につなげる工夫をしている 44 教科の特質を踏まえた定着・習熟の時間にもしている 45 タイムマネジメント(課題5分、個人思考(5~10分)、集団思考15~20分、まとめ5~10分、ふりかえり5分)

T

C

I 課題の設定 ＊協働的 I 「学習問題の提示」 ＊主体的 ①「全国学力・学習状況調査の資料を見てください。」	(資料)
II 「問いをもつ」 ＊主体的 ②「書いた人は、1 分間見てください。」 ③「気がついたことはありませんか。」 ④「考えられることは、どのようなことですか。」 ⑤「調べてみたいことはどんなことですか。」	(資料を見る) ①「気が付いたことは・・・」 ②「考えられることは・・・」 ③「調べてみたいことは・・・」
III 「問いの共有」 ＊協働的 ⑥「大よそ、どんな内容（答え）になるでしょう、ペアや班で確認しましょう。」 ----- 間合い ----- ⑦「課題とゴールを書きますので書いてください」 「学力の現状を見て、授業改善の方法を見つけよう。 また、そのことについて交流（考察）をしよう。」 ⑧「書いた人は青で囲みましょう。」 ⑨「書いた人は、1 回読みましょう」 ⑩「今日の授業の流れ（シラバス）は～。」 ⑪「自力解決のヒントは～。」（シラバス、自力集団解決 ⑫「今日、使って欲しい言葉（言語わざ）は～。」	（ペアもしくは班で大よその内容（答え）を確認） ④「大よそ〇〇になると思います」 ----- 間合い ----- 全員「分かりました。課題を書きます。」 全員「分かりました。青で囲みます。」 全員「分かりました。1 回読みます。」 全員「流れが分かりました。」 全員「ヒントが分かりました。」 全員「言語わざが分かりました。」
IV 「自力解決」 ＊主体的 ⑬「まずは自力解決です。時間は 10 分です。」 ----- 間合い ----- ⑭「自力解決が難しい人は周りの人に聞いて下さい。」 ⑮「学習の手引き書（学ブック）を見るといいですよ。」 ⑯「先生が赤ペンを持って回ります。」 ⑰「それでは、ノート展覧会です。ペアで立ち歩いて周りの人のノートを見て情報を収集しましょう。」 ⑱「それでは、付け加えてください。」 ＊この段階で全生徒が何らかの考えを持つ	全員「分かりました。自力解決をします。」 ----- 間合い ----- ⑤「私は分からないので〇〇さん教えて下さい。」 全員「学習の手引き書(学びナビ)を見ます。」 全員「ノートに花丸を付けてください。」 全員「はい、ペアで周りの人のノートを見て書いていることを情報を収集します。」 全員「はい、付け加えます。」 ＊この段階で全生徒が何らかの考えを持つ
V 「集団解決」 ＊協働的 ⑲「ペア学習（情報交換タイム）です。褒めてアドバイスをしましょう。」 ＊しなくてもよい。 ----- 間合い ----- ⑳「班学習です。司会者方式、ワークショップ方式、ノート交換がありますが、今日は司会者方式をとります。」	⑥「あなたの〇〇はいいです。〇〇にするといいね。」 ----- 間合い ----- ⑦「司会者です。」【班学習の進め方】 司会：これから（ ）について話し合います。 全員：はい。 司会：時間は（ ）分です。では、意見を発表してください。 ◇全員が意見を言う。 ◇意見を言えない人は、「まだできていません」と言う。

	◇「です」「ます」を使って短く発表する。 司会：友達の見解に質問はありませんか。 ◇質問があれば「（ ）君さん、どうですか。」と問う。
-----間合い----- ㉑「集団解決です。とりあえず分かったことを言いましょ。教科進行係が司会をしてください。」 * 学び合い 1 ・意見や調べた事実の単純な意見交換 -----間合い----- ㉒「考察をします。類似・相違・共通点・明瞭・正確・簡潔な所を言いましょ。」 * 学び合い 2 ・学習課題に迫る学び合い「考察（類似、相違、共通）」 -----間合い----- ㉓「先生が皆さんの考えに付け足します。・・・。」	司会「これで班学習を終わります。」 全員「はい。」 -----間合い----- ⑧「」 ⑨「」 ⑩「」 -----間合い----- ⑪「」 ⑫「」 ⑬「」 -----間合い----- 全員「先生の修正がよく分かりました。」
Ⅵ「価値の共有」*主体的 ㉔「まとめを自分のことばでまとめましょ。書いた人は赤で囲んでください」 -----間合い----- ㉕「まとめを発表しましょ。」*教師は不可 -----間合い----- ㉖「まとめのまとめを発表してください。」 -----間合い-----	全員「まとめを書き赤で囲みます。」 -----間合い----- ⑭「まとめると」 ⑮「まとめると」 ⑯「まとめると」 -----間合い----- ⑰「3人のまとめをまとめると」 *教師がまとめない、児童生徒が発表、発表者を褒める、全体を褒める。 -----間合い-----
Ⅶ「振り返り」*主体的 ㉗「振り返りです。3視点（分かったこと、学んだこと、もっと知ったこと）でまとめてください -----間合い----- 28「振り返りを3人の人が発表しましょ。」 -----間合い----- ㉘「振り返りの振り返りです。代表の人振り返りをまとめてください。」	全員「振り返りを3視点で書きます。」 -----間合い----- ⑱「分かったことは、」 ⑲「学んだことは、」 ㉑「もっと知りたいことは、」 -----間合い----- ㉒「3人の振り返りをまとめると」 *教師は不可、発表者を褒める、全体を誉める

*** ㉒ 「学力の現状を見て、授業改善の方法を見つけよう。また、そのことについて交流（考察）をしよう。」**

*** 用意するもの** A3用紙3枚、細いマジック1本、付箋紙一人10枚、一グループ6～10人